



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会 発行日 2021年1月3日

№. 80

あなたは主の御手の中で輝かしい冠となり
あなたの神の御手の中で王冠となる。

イザヤ書 62章3節



礼拝献花より

御言葉に生きる

あなたの御言葉は、わたしのものとなり わたしの心は喜び躍りました。

エレミヤ書 15章16節b

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『御手の中で』

牧師 佐藤和宏

ルカ2章22節〜40節

第一の朗読でお読みしたイザヤ書61章10節に次のようにありました。

「わたしは主によって喜び樂しみ／わたしの魂はわたしの神にあつて喜び躍る。主は救いの衣をわたしに着せ／恵みの晴れ着をまとわせてください。花婿のように輝きの冠をかぶらせ／花嫁のように宝石で飾ってください。」(61章10節)

「わたしは主によって喜び樂しみ、主にあつて喜び躍る」と告げられています。その理由は「主は救いの衣」を着せ、「恵みの晴れ着」をまとわせ、「輝きの冠」をかぶせ、「宝石で飾ってください」。すべての良いものが主によって整えられるからであると言うのです。いいえ、主によって整えられる、そのすべてが良いと言われているのです。聖書において「恵み」が、私たちにとって良いことかどうかではなく、神が無償で与えてくださったものを意味しているのは、こ

のことをあらわしているのです。しかし大切なことは、ここで言われている救いに関することがすべて実際に実現する前に、救いを確信して神をほめたたえているという事実です。そしてこの事実が示していることは、救いに関して人の判断が入る余地などないということです。

62章3節に次のようにありました。「あなたは主の御手の中で輝かしい冠となり／あなたの神の御手の中で王冠となる。」(62章3節)「主の御手の中で輝かしい冠となり、王冠となる」と言われています。人ががんばったからでも、信仰深いからでもなく、ただ主の御手の中で、人は冠となり、王冠となると言われているのです。ここでもすべてが主の判断によって、主の御手の中で成し遂げられているのです。

さて、これまでも日課の改訂における変更について触れてまいりましたが、改訂されたことよって、今日の日課は25節からではなく、22節から読まれるようになっていきます。こうして22〜24節と38〜40節が今日の日課全体を挟み込んでいます。この枠組みは、主の律法、そしてそ

れに従順である親子の姿を描いていることがわかります。そして、あのシメオンとアンナの証言を挟み込んでいることがわかります。

この福音の日課全体を挟み込んでいる「律法に従順」という枠組みは、第二の朗読でお読みいただいたガラテヤの信徒への手紙4章4節以下に次のようにあることが、その理由と言えるでしょう。「時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。それは、律法の支配下にある者を贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした。」

つまり、改訂された日課によって明らかとなった枠組みは、律法に従順である親子の姿を示しているのです。それは幼子が「律法の下に生まれた者として遣わされた」事実を明らかにしているということなのです。そして、この「律法の下に生まれた者として遣わされた」幼子こそ、「律法の支配の下にある」私たちすべての者を贖い、神の子とするのです。この幼子こそ、私たちの「救い」であるという証しを耳にする。これが改訂された聖書日課が示している福

音なのです。

「御手の中で」という歌があります。それは「御手の中で すべては変わる 賛美に」と始まっています。「御手の中で」「すべては賛美に変わる」。御手の中で、私たちの目に困難と映る状況さえ、情けなくみえる現実さえ、すべてが賛美に変わるといふ確信が言い表されています。困難に直面して、神はおられないように思えるそのときにも、私たちは御手の中に生かされている。なぜなら幼子は「律法の支配の下にある」私たち、すなわち罪のもとにある私たちを贖い、神の子とするために、クリスマスにお生まれになったからです。

律法の支配の下にお生まれになつて、私たちの罪をご自分のものときれるほど、私たちを愛し、私たちとともにいることを喜びとされたのです。この主キリストのゆえに、私たちは常に「御手の中に」ある者とされたのです。ですから、私たちのどこに行っても、何があっても、神の救いのうちにおかれている。このことを確信して、私たちは安心して生きることができるのです。

(降誕節第一主日)

御言葉に生きる 5

私の愛唱聖句

○田○

「ごめんください。」

私がまだ若かりし頃の、冬の寒さで身が引き締まるある日のこと、大柄な、いかつい顔の二人の男性が、自宅に私を訪ねてきました。

母「はい？どちら様ですか？」

男性「すみません。八尾警察からお伺いしました。杉田勉さんは、おられますか？」

八尾警察署は、自宅から歩いて5分位のところでした。

母「ええええ？あのう…、勉は今出かけていて…。息子が何をやらかしたのですか？警察のお世話になるんですか？」

この時のことは、後日聞いたことですが、母は卒倒したそうです。腰がぬけたように座り込んでしまったそうです。

男性「いえいえ、そんなことではありません。実は、○さんが警察官の採用試験を受けて下さって、見事、

優秀(?)なご成績で合格されました。私たちは本部からの指示で是非就職頂きたく、お願いにお邪魔したまでです。ご子息にも、そのようにお伝え下さい。親御さんからも、ぜひお勧めください。」と、帰っていったとのことでした。

私の就職時期、オイルショックが発生し、世界中が不況となり、国内においても、民間の主な企業は新卒社員を採用することが軒並み中止となりました。ちなみに、その時の車のガソリン価格は200円/ℓくらいまで値上がりしたと、記憶しています。

しかし、当時私には交際している女性がおりました、将来のことも考えておりました。その女性とは、現在の妻、和○です。将来を考えていたとはいえ、こづかい稼ぎのアルバイトに精を出す学生であった私には結婚資金などなく、無一文の状態でした。早く就職し、貯金をしなければと、そのことばかり考え、焦っていました。

幸い、タイミングよくある民間企業が翌年の新入社員を募集していることを知り、受験しました。周りは

優秀そうなひとばかりに見え、ダメかもしれないな…と思っていたところ合格の通知があり、天にも昇る気持ちでした。結局民間企業への就職を決断しました。実はその企業の都合で不定期募集だったので、大阪では約300人の受験者から合格者は9人であったと、その時の試験官から聞き、ああ、俺も捨てたものではないなあ…と自己満足し、就職ができてめでたしめでたしとなりました。

初めのころ数年間は出身地の大阪地域での勤務でしたが、3年後くらいから転勤の連続となり、妻にも子どもたちにも迷惑をかけました。その後、次女、三女と誕生しました。

現在は新幹線も高速道路も整備され日本も狭くなっています。約50年前は、見知らぬ外国に行くような感覚で、大阪からそう遠くはない初赴任地、鳥取県米子までも、この世の果てだと思っていました。その向こうは、天国か地獄か…(?)冗談ではありませんが、その向こう側は大きな滝があり、その下は滝つぼだとも言われたこともあります。長女次女ともキリスト教関連の幼

稚園に通わせたのですが、次女は新しい環境になじめなかったのか、登園拒否に陥りました。当時、保育園という施設はありませんでした。幼稚園からは「泣こうがわめこうが、連れてきてください。」と指示があったので、自宅の柱にしがみつき、登園をいやがる次女に心で詫びて柱から引き離し、無理やり送っていきました。一時的なものでしたが、この先どうなるか…と心配でした。

私は私で、社内の昇格試験受験のため、毎週休日は閉じこもって受験勉強が続きました。

三女は、姉二人が登園するのを見て自分も行きたいと訴えるので、3年保育で入園させたところ、その年の7月、私が転勤となりました。新しい赴任地・岡山市では3年保育はなく、幼稚園浪人となってしまいました。

私生活では、住環境はのんびりした地域でしたので、夏は家の前の田んぼでおたまじゃくしと戯れ、冬は積もった雪でそり遊びを楽しむことができました。ただ一つ、方言には特に大人の方が慣れるができませんでした。(次号に続く)

忘れえぬ御言葉

江〇〇子

「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」ヨハネによる福音書14章6節

40数年前、中学一年生の私は初めて修養会に行った。何と言っても二泊三日を友人達と過ごす事で嬉しくてキリスト教の学びはすっかり忘れていたが、その時の標語聖句が今だに忘れられない。その後、修養会には何回も参加したが、思い出すのは天城山荘のソフトクリーム、東山荘での徹夜などである。

このように強烈に印象深く又心に刻まれているのは何故だろうか？

この聖句をふと思いついたり、礼拝の説教、昨年の家庭集会でも何度も取り上げられていたが、いつも疑問を感じながらもそのまま通り過ぎていた。

月報で愛唱聖句についての依頼を頂き、何度も読み上げるうちに答えが見つかったような気がする。

人生という道を歩いている時、胸

をはって前をしつかり見つめる時も、うなだれてため息をつきながら歩く時もあった。平らな道ばかりではなく、山も谷もあった。その都度、迷わないように道しるべとなり、手を添えて共に歩いて下さったイエス様がいらした。だから私は歩み、これからも歩み続ける。難攻不落だったこの聖句にあの修養会で出会ったからこそ今の私、これからの私がいるのだろう。

A氏との 1 往復書簡

A氏 礼拝では、3つの朗読がありますが、その繋がりや選択の意図が分かりません。福音の朗読が主であるとすれば、第一と第二との関連性が不明です。本日の場合ですと、第一朗読のイザヤ書の位置付けが全く分かりませんでした。

牧師 ルーテル教会の礼拝では、そ

今、心に響く御言葉

「苦難は忍耐を。忍耐は練達を、練達は希望を生むという事を。希望は私達を欺くことがありません。」ローマの信徒への手紙5章3、4節

コロナウイルスから始まりコロナで暮れるこの一年、何気ない日々は様変わりし、ニュースで見える感染者数に一喜一憂する日常だ。第三波襲来で年末年始もいつもとは違う過ご

れぞれの主日に主題が設定されています。その日の主題にあわせて、日課、特別の祈り、(可能な限り)賛美歌が選ばれています。そして、それは国内に限らず世界中のルーテル教会などで(ほぼ)共通しています。聖書日課は、主題にあわせ選ばれています。例えば2019年12月より「改訂共通聖書日課」(RCU)を使用していますが、それは1983年に出版された「共通聖書日課」(CC)を試用した教会各派の声を集めたものになります。その目的は、よ

し方をするだろう。毎日の祈りの中でいつもこの不気味なウイルスが解明されて人類から退散するようにと願う時必ずこの聖句が頭にうかぶ。不安や絶望、先の見えないトンネルに入ってしまったように感じて心が折れそうな時、希望と言う御言葉は魔法の力となって私を励まし、生きる糧を与えてくださる。書き終える今、改めてこの御言葉を心に刻み、神様に感謝！

り主題にふさわしい日課の選択になります。もちろん、第二の朗読は、お気付きのように、基本的に順を追っていますので、必ずしもその日の主題に重なるかと言えば、決してそうではありません。ただ、時に見事に重なることもあり、そこに神の業をみる思いがします。先日の主題は、お送りしていますその日の「特別の祈り」が明確にしています。「喜びの宴を司る主、あなたは全ての民を祝いの食卓に招き、あなたの命を惜しみなく注いでくださいました。今一度私たちを招き、名誉なこと・正しいこと・清い

ことによって、私たちを強め、義と平和の一つの民へと造り変えてください。救い主、主イエス・キリストによつて祈ります。アーメン」

「喜びの宴」に招かれることに触れられています。聖書では「婚宴」について、キリストが再臨された際の祝宴を意味しています。マタイによる福音書25章に「十人のおとめのとえ」がありますが、花婿が来られるのを迎える役目のおとめが予備の油を用意しているかどうか問われています。キリストの再臨がすぐにでも起こると期待されていた、初期教会においてそれが遅れているように感じられる中で、人々を励まし待つようにと教えるたとえとなっています。特別の祈りからは、喜びの宴に「今一度私たちを招き」、つまり「招き」に答えられなかった私たちが新たな招きに答えることができようにと祈っていることがわかります。福音の日課は、以上のような主題から選ばれていることがわかると思います。

それに対して、第一の朗読としてイザヤ書25章が選ばれている理由は、6節に「万軍の主はこの山で祝

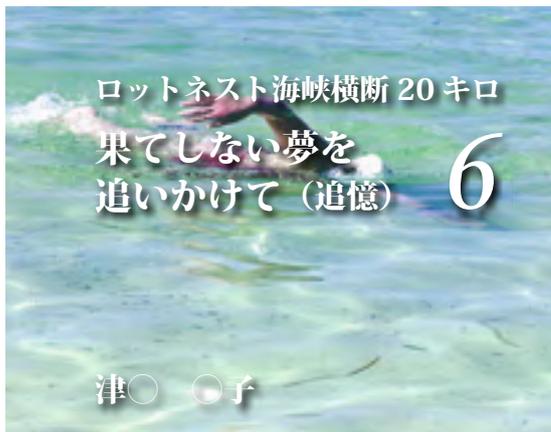
宴を開き」とあることが考えられます。これは特別の祈りにある「喜びの宴」と重なります。

さらに7、8節に「主はこの山で、すべての民の顔を包んでいた布とすべての国を覆っていた布を滅ぼし、死を永久に滅ぼしてください。」とあります。

「顔を覆う布」は、出エジプト記34章の故事に由来すると考えられます。主のみ前に出たモーセの顔が輝いていたのですが、「再びみ前に行くと主と語るまで顔に覆いを掛けた」

(35節)とあります。つまり、包んでいた布とは律法のこと(モーセと律法)を示しているのです。

そして、その布を滅ぼし、死を滅ぼしたのは、キリストであると理解されているのです。そうすると、先の「祝宴」は、キリストと結びつき、キリスト教的には、再臨のキリストとの祝宴と理解されるわけです。イザヤ書25章9節で、「その救いを祝つて喜び躍ろう」と、その日の第一の朗読が閉じられているのは、印象的です。(続く)



さてレースに戻る。レースのルールにもう一つ、10キロ地点を12時

30分、15キロ地点14時45分までに通過。ゴールは17時までの制限タイムがある。今回の私はまず10キロまで、5時45分に出てもここは越えるだろうが、問題は15キロを超えて最後にどのくらいの力が残っているかであった。奄美のソロ以外にやったことはないし。

レースの初め、出だしにハプニングがあったわりには妙に落ち着いていた。波も穏やかになり、10時20分頃には10キロ地点を通過した。「次はお握りですから頑張つて」水温は22℃くらい、気温は38℃くらい。パ

ドラーさんはボートをまたぎ、水中に足を投げ出している。アヒルの足のようにだ。暑いのだろう。泳者に合わせて20キロ、すごく大変なことだ。池畑さんも唐木さんも飛び込んで体を冷やしている。「このまま15キロまで行きましょう」。15キロは12時半頃か。給水のたびに時間を聞いてみると、私の考えている距離と時間と給水のタイムニングが一致する。あと何キロ、給水が何回と分かって、ならここでスピードを上げて、ここでストレッチ、少し腕が痛くなってきたので、この1キロは用心とか。もう残り3キロ。スピードを上げてきてもこの腕は大丈夫。自分でレースを楽しんでいることが嬉しくて。「いい調子です。スゴイスゴイ。肩が上がっています。回っています」

ロットネスト島がグングン迫ってくる。見慣れた景色、大きな亀が首を持ち上げるし、エイはお腹の下を泳ぐし、今回はクラゲの悪戯もたいしたことなく、万々歳である。そう今回は波が大きくてパドラーさんの姿が見えなくなることは一度もなかった。

Kingston spotの白い岩畳の上を通る。今年もかなり北側に流されたようだ。「進路左に、左手に」と指令。コーチ、二人のマネージャーのニコニコ顔がよく見える。「安定していますよ。良い泳ぎですよ、ピッチ上げて」左に赤ブイ。Thomsonに入り、日本の船に出会う。「よく頑張りました。おめでとう。ゴールまで頑張ってください」。伴走船からの最後の応援を背に、笑みを浮かべて泳ぐ。デュオもリレーも頑張っている。ゴール400m前でパドラーさんが、「バイバイ、Good swimmer」と言い残

して去った。もうまっしぐら。最後だ、最後だ、泳いでしまった。泳いだよ、泳げたよ、まだ泳げるよ。砂地に手が届く浅さまで泳ぎ、徐々に立ち上がる。ウワアオー、両手いっぱい水を押し上げて。(続く)

■教会の動向



新しい一年に入った11月29日の礼拝より、第二段階として3グループ制から2グループ制へと移行しました。ご心配の声もあるかと思いますが、消毒、人数制限、換気、距離の

今月の受洗記念日の皆さん

1日 ○瀬○允兄、○田○兄、倉○○姉、○井○司兄
 8日 田○(○)圭兄 11日 ○田○貴子姉、○田○志兄
 12日 ○嘉○実兄 17日 ○野○苑姉
 吉○○子姉

おめでとうございます。



「あなたの御言葉は、わたしのものとなり
 わたしの心は喜び躍りました。」エレミヤ書 15章 16節
 福音堂教会ウェブサイト <https://www.ch-fujigaoka.org/>
 フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日朝10時頃)



確保等、細心の配慮をし、安全な礼拝環境を整えております。もちろん、それでも完全ということはありません。それから、体調がすぐれない方やご心配な方は、礼拝をお休みになつてくださいます。ただその旨を地域の担当役員までご連絡いただけますと、嬉しく思います。

6日の礼拝後、定例役員会が開かれました。決算見込みの確認や教会の準備をいたしました。13日の礼拝後、クリスマスカード、印刷物の発送作業をいたしました。

教会では、皆が集まってクリスマス礼拝を守ることができませんの

で、12月20日と27日の礼拝を「クリスマスを祝う」礼拝として過ごしました。また、両日、聖餐式を執り行いました。通常と異なる形式で距離を確保しつつの聖餐式でしたが、昨年2月以来であることもあり、恵み深い出来事を、改めて感じる機会となりました。また、20日の礼拝にて、○田○子さんの転入の祈りをいたしました。(写真) 日本福音ルーテル栄光教会から転入された○田○さんは、昨年8月に召天された○田○憲○牧師のお連れ合いです。ようこそ藤が丘教会へ。心より歓迎いたします。

30日に臨時役員会を開きました。コロナウィルス感染拡大が続く中、教区から総会開催についての指針が届いたことを受け、協議されました。結論としては、総会は予定通り開催するが、時短のため選挙は事前投票をお願いすることにしました。10日と17日にそれぞれ投票用紙を配付し、投票をしていただきます。その場で投票するか、帰宅後郵送していただくこととなります。

引き続き、皆さんとご家族の健康が、主にあつて守られますように、お祈りいたします。(佐藤)